

P25

ニーズに合わせた障害者の包括歯科医療  
-自閉症・精神発達遅滞患者への  
4年8か月の歯科的支援-

○西川哲太、大野秀夫、宮本茂広、宮本理恵  
(医)おおの小児矯正歯科(下関市)

【はじめに】患者の基礎疾患は自閉症および精神発達遅滞であった。1989年2月(4歳10か月)う蝕治療を希望して当医院を受診。治療後定期的に受診せず、2004年4月(20歳0か月)13年ぶりに検診を希望し来院。萌出歯は全てう蝕に罹患、その他歯周疾患、根尖性歯周組織炎および不正咬合(叢生)が認められた。そこで、患者のニーズに合わせ健常者と同様の治療、指導および支援を行った4年8か月の状況を報告する。

【症例】

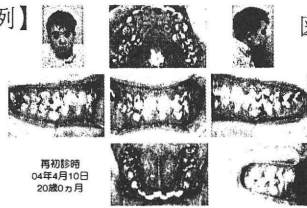


図1：再初診時の顔面・口腔内写真

【治療方針】

- A. 包括歯科医療を行う
  1. 当医院で行う健常者と同様の歯科治療
  2. 定期的な受診行動を促す
  3. 患者の状況にあわせた治療計画の立案
- B. 相手のニーズにあわせる  
患者、母親の生き方を考慮し、母と子の絆を大切にする。

【経過】

図2：治療経過表

時間	2004	2005	2006	2007	2008	2009
検査	1 5 9	3 4 5 7 11	12	7	1 5 10 12	
歯周治療	歯周初期治療	定期的なパキング、歯石の除去		歯周病治療	歯周病治療	歯周病治療
う蝕治療	1) 歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ		2) 歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ		3) 歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ	
患者の接し方		患者の成長にあわせて、定期的な検診を促す。また、検診内容がわかるように、検診内容をイラストや写真で説明する。			歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ	歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ
母親の受診行動		定期的な受診行動		定期的な受診行動	定期的な受診行動	定期的な受診行動
説明評価		歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ		歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ		歯周病治療後、歯肉退縮、歯根露出、歯冠欠損、歯冠修復、歯冠延長、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ、歯冠被せ



図3

図3：治療終了時の顔面・口腔内写真

【まとめ】再初診から治療終了までに4年8か月を経過したものの、口腔内が健康になったことを母親が大変喜ばれた。母親は当医院への定期的受診の重要性を認識され、2009年7月現在定期健診が生活の一部となっている。

P26

歯の萌出に伴う破骨細胞の役割の解明

○森川和政、佐伯 桂、大倉秀一郎、  
西田郁子、牧 憲司  
九歯大・小児歯

【目的】歯の萌出には、萌出経路の形成が重要で、歯を覆っている歯槽骨に破骨細胞の骨吸収がうまく作用しないと歯の埋伏による歯列不正など不正咬合を引き起こす可能性が高くなる。破骨細胞の骨吸収活性は細胞接着、酸分泌、タンパク分解酵素が深く関わっていることが知られている。我々は破骨細胞におけるイノシトール1,4,5-三リン酸 (IP3) 受容体 (IP3R) の局在についての研究を行ってきた。最近、このIP3RのサブタイプのひとつであるIP3R - III型の局在が破骨細胞の細胞接着部位 (ポドゾーム) に関与している可能性を示唆する報告を行った。本研究では、IP3R - III型の破骨細胞における細胞接着との関わりをさらなる解析を行った。

【方法】①新生児ラット歯槽骨組織切片を作成し、歯の萌出経路形成に関わる破骨細胞でのIP3R - III型の発現を観察する。②ラット骨髄細胞を回収し、破骨細胞を形成後、IP3RアンタゴニストであるゼストスポンギンC (XSC) を添加し、XSCの存在下、非存在下におけるポドゾームへの影響、変化を観察する。

【結果】①歯槽骨組織切片において歯の萌出経路形成に関わる破骨細胞でのIP3R - III型の発現が認められた。②XSCの濃度依存的にポドゾーム構造の減少、ポドゾーム発現部位とIP3R-III型の共存の減少、破骨細胞分化の抑制、多核化の減少、吸収窩の減少が認められた。③XSC存在下においては破骨細胞の形態変化として収縮が認められ、アクチン線維の配列の乱れが観察された。

【考察】IP3R-III型は、ポドゾームでのアクチン細胞骨格の調節と骨吸収において重要な役割を果たしている可能性が示唆された。